



2025 年度
アサヒグループ
環境行動報告書

2026年5月20日作成

目次

1. 事業活動の内容	3
2. 品質・環境方針	4
3. 2025年度 環境活動	5
4. 環境活動の実績と今後の活動内容	6
5. 環境法規制関係	8
6. 管理責任者による全体の評価と見直し	14
付属1 2025年度環境行動報告	16
付属2 各目標値の推移	17

1. 事業活動の内容

多様化社会のニーズに応え、時代を先取り。

私たちは未来の「包装」をトータルに見つめます。

(1) 旭紙業株式会社

商号	旭紙業株式会社
役員	代表取締役社長 小林 裕明 専務取締役 小林 丈人 社外取締役 上平 徹 監査役 須賀 清文
設立	1941年5月(創業1911年)
事業内容	段ボール及び紙器製造 ペーパーハニカム製品製造
資本金	2,000万円
本社	〒108-0074 東京都港区高輪4丁目11番地32号 TEL 03-3443-7591(代)/FAX 03-3443-0089 e-mail head-office@asahishigyo.co.jp
横浜工場	〒235-0017 神奈川県横浜市磯子区新磯子町30番地5 TEL 045-751-7591(代)/FAX 045-751-0089 e-mail isogo@asahishigyo.co.jp
藤枝工場	〒426-0041 静岡県藤枝市高柳2712番地1 TEL 054-635-3181(代)/FAX 054-636-1714 e-mail fujieda@asahishigyo.co.jp

(2) 東北旭紙業株式会社

商号	東北旭紙業株式会社
役員	代表取締役社長 小林 裕明 専務取締役 小林 丈人 取締役工場長 大河原 忠広 取締役営業統括部長 田辺 章雅 取締役総務部長 石淵 智巳 監査役 上平 徹
設立	1969年4月
事業内容	段ボール及び紙器製造 ペーパーハニカム製品製造
資本金	3,000万円
本社	〒969-0404 福島県岩瀬郡鏡石町南町389番地 TEL 0248-62-3111(代)/FAX 0248-62-3115 e-mail tohoku@asahishigyo.co.jp

(3) PT.O.A.J

商号	PT.ORIENTAL.ASAHI.JP CARTON BOX
設立	1992年6月
資本金	U.S.500万ドル
本社	Jl. Irian II-I Blok AB2, Kawasan Industri MM2100,Desa Danau Indah, Cikarang Barat, Bekasi, Jawa Barat 17847,INDONESIA TEL 021-898-0503/FAX 021-898-0409

(4) 旭紙業(常熟)有限公司

商号	旭紙業(常熟)有限公司
設立	2005年7月
資本金	U.S.390万ドル
本社工場	江蘇省常熟市経済開発区沿江工業区馬橋路工業坊2棟 TEL 0512-5229-7591/FAX 0512-5229-7192
第2工場	江蘇省常熟經濟開發區沿江工業區汪灣北路2號1棟



2. 品質・環境方針

『品質・環境方針』

ひんしつ いま

品質は今日

かんきょう みらい やくそく

環境は明日を約束！

顧客満足度の向上のために、顧客の要求事項を良く理解し、要求事項を満たすため各工程管理を徹底し、時間を掛けずに品質作りを行うことを約束します。

要求事項をクリアーするためには、環境保全活動を推進し、環境汚染の予防、継続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、環境保護・生物多様性及び自然生息域の改善を、継続的に実施し、全社員が参画することにより未来への地球環境を守り抜くことを約束します。

1. 事業活動において、品質・環境マネジメントシステムを構築することにより、顧客満足度の向上及び、アサヒグループに関わる全ての人に対する環境保全、資源保護等の活動を行い、環境負荷の軽減に努める。
2. 開発・設計・製造活動において、品質向上はもとより、原材料の省資源化、電力使用量の効率化、廃棄物の減量化、再資源化、FSC[®]（森林認証制度、ライセンス番号 FSC[®]-C131429、対象 旭紙業(株)本社・横浜工場・藤枝工場・東北旭紙業(株)）を推進するとともに、生物多様性保全を含む環境保全活動の継続的改善、汚染の予防を推進する。
3. 事業活動に関連する法律、規制、協定のほか、アサヒグループが同意した要求事項を順守する。
4. 環境に配慮した製品の開発・設計・製造においてライフサイクルを考慮して、技術的、経済的に可能な範囲で、目的及び目標を定め、活動するとともに、定期的に見直しを行い、同業他社との製品差別化戦略として企業存続に努める。
5. 品質・環境マニュアルをもとに、リスクと機会を考慮し、改善の為の提案活動を推進し、品質・環境マネジメントレビューを行い、維持する。
6. アサヒグループ及びグループに関わる全ての人々に、品質・環境方針を周知させ、一般の人々にも公表する。

代表取締役社長 小林裕明

3. 2025 年度 環境活動

(1) 対象範囲

旭紙業株式会社 本社
 横浜工場
 藤枝工場
 東北旭紙業株式会社

(2) 対象期間

2025 年 4 月～2026 年 3 月

(3) 環境活動

①省資源化の推進

- ・電気使用量の削減
- ・OA 用紙コピー用紙の使用量の削減
- ・工程内ロス削減
- ・ガス（燃料）使用量の削減

⑤地域社会への貢献

- ・地域の清掃活動

②リサイクルの推進

- ・リサイクルの推進
- ・環境対応品の提案

⑥CO₂ 排出量削減

- ・エネルギー使用量の削減

③廃棄物削減

- ・産業廃棄物の削減

⑦環境意識の向上

- ・関係業者への環境意識の向上

④安全・防災

- ・消防訓練
- ・防災訓練
- ・安全意識の徹底
- ・0 災害推進

⑧経営システムの見直し

- ・CSR、SDGs の推進
- ・ISO9001、14001 更新
- ・健康経営優良法人および SEMETA 認定の取得・維持
- ・ストレスチェックの実施

SDGs は 2015 年国連総会で採択された 2030 年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標であり、17 の目標とそれらを達成するための 169 のターゲットで構成されています。当社は環境活動を取り組む中で、関連する SDGs を目標と結びつけ、持続可能な社会貢献を推進いたします。



4. 環境活動の実績と今後の活動内容

(1) 実績と今後の目標

①省資源化の推進



・電気使用量の削減

作業効率を高め、早期退社を実施することにより各事業所での電力使用量の削減に努めます。また、節電設備の導入を推進します。(各事業所)

昨年度は横浜工場で目標を達成し、本社・藤枝工場・東北旭紙業で目標を達成できませんでした。追加設備の設置により電力消費量が増加したことが、主な原因でした。

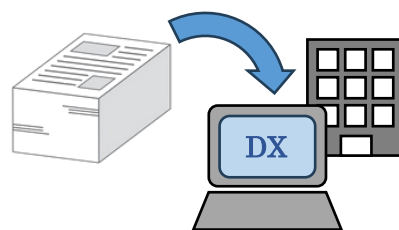
旭紙業では生産性向上の為に製造部門における各作業の見直し・設備の更新等を推進すると共に、営業部門や業務部門においても製造部門の作業性が向上するように製品設計や製造計画の改善を行い、無駄な作業を省くことにより省エネを実現して参ります。

- ▶ 旭紙業では PGK (Power Gate Keeper[®]) の導入を検討しております。手始めに横浜工場内の各分電盤に設置し、高周波ノイズを抑制することで構内電力品質を改善 + インバータ性能改善を行い、年間電気使用量 4% 以上の削減を見込んでおります。
- ▶ 横浜工場に太陽光発電の増設と大容量蓄電池の導入を行い、電力の自家消費を拡大させ CO₂ 排出量を削減する計画を推進中です。2027 年 3 月導入の予定です。

・OA 用紙コピー用紙の使用量の削減

OA 用紙の使用量は本社・東北旭紙業で目標を達成し、横浜工場・藤枝工場で達成できませんでした。

現在、旭紙業では DX 化に取り組んでおり、その一環としてペーパーレス化を推進してまいります。



・工程内ロス削減 (古紙発生量の削減)

再製造につながる製造ロスは資材及び各種エネルギーの浪費につながることを周知徹底し、製造ロスの原因を追究し、改善につなげることにより製造ロスの発生を防止します。(製造担当・品質管理室)

昨年度は横浜工場の段ボール部門と藤枝工場・東北旭紙業は目標を達成できませんでした。また、横浜工場のハニカム部門はラインにより達成・未達が分かれました。

事業所ごとにロスの原因は異なっており、原因分析を行い、それぞれに最適の生産体制を実現することで目標達成を目指してまいります。

・ガス（燃料）使用量の削減

機械停止により無駄が生じれば各種エネルギーの浪費につながることを周知徹底し、機械停止の原因・時間・回数の記録を行い、改善につなげることにより停止時間・回数を削減します。（製造担当）

横浜工場・東北旭紙業は目標達成できませんでした。ボイラーに関しては段ボールの生産性向上によりガスの使用量削減の取り組みを実施し、フォークリフトに対してはアイドリングストップの実施と急発進・急ブレーキ防止の意識向上に取り組んでいきます。

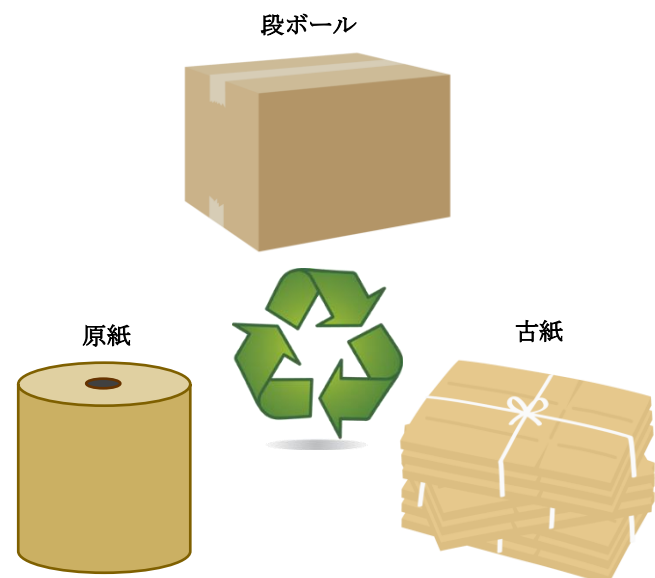
②リサイクルの推進



・リサイクルの推進

工場で使用される段ボール古紙やOA用紙及び事務所で使用されるトナーのリサイクルを推進します。（各事業所）

旭紙業では段ボールの原料となる古紙のリサイクル活動を推進しております。古紙は旭紙業内で圧縮・ブロック状にされ、配送効率を上げたうえでリサイクル業者に引き渡され、原紙メーカーにて再生資源として活用されます。また、ゴミの分別回収も行い、今後も廃棄物削減に努めてまいります。



・環境対応品の提案

顧客に対して現状より優れた環境対応品を提案することにより、社会全体への環境負荷の軽減につなげていきます。(営業担当)

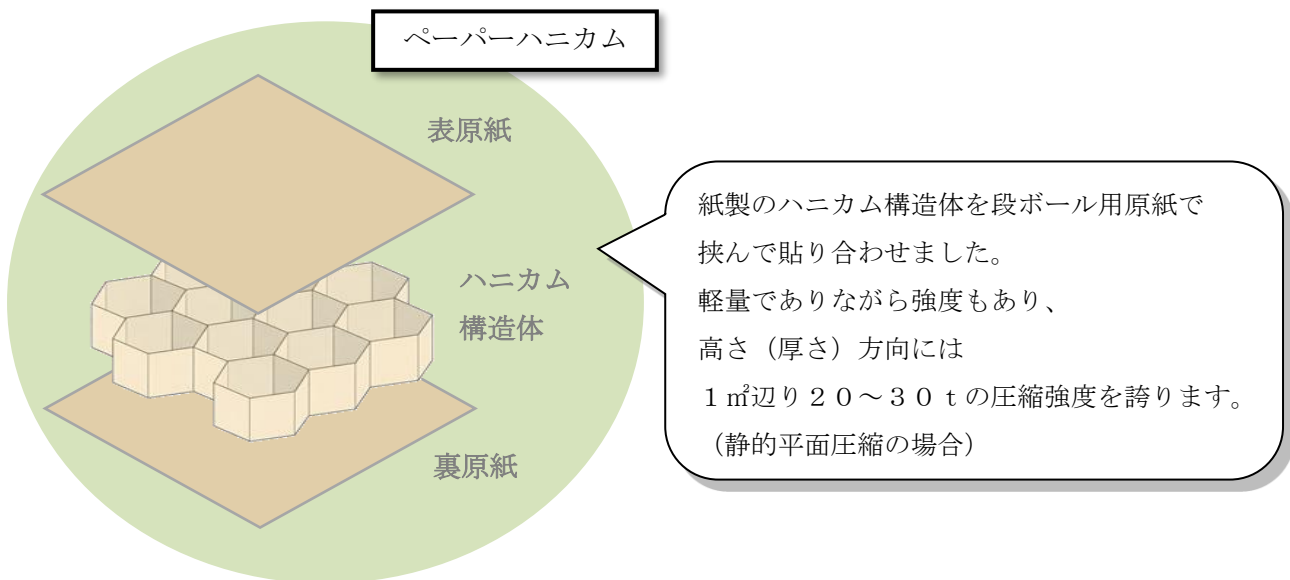
旭紙業では段ボールの持つ『構造体による高強度』『軽量』『環境への軽負荷』『リサイクル性』等を生かした製品作りをお客様と共に進めております。

※木材・プラスチック材・発泡材などの代替材としての紙素材のご提案

※設計変更による包装資材の省資源化

※使用段ボール原紙の見直しによる軽量化

また、旭紙業では軽量・高強度なペーパーハニカムを使用した製品も開発しており、これらを用いた環境対応品のご提案を進めていきたいと思っております。



紙製パレット

ペーパーハニカムを使用した紙製パレット。
軽量で高強度。女性でも楽に扱えます。
段ボール古紙として処分することが
出来るので環境にも優しいパレットです。



イベントブース



イベントブースでも木材に代わる素材として注目を受けています。
従来の工法と比べ、設営時間・撤去時間の短縮につながるほか、紙製の為、処分も容易です。

今までは木材で作成していた什器を紙製に変更。環境負荷の低減を実現しました。
直線と曲線を組み合わせたカット、折り込み・切り抜き加工、パネル等ギミックの埋め込み、複数パーツによる組み合わせ、インクジェットプリンタによる印刷。
多彩な加工が可能です。

紙製什器



災害用ベッド



パーティション



旭紙業では段ボール・ハニカム素材を用いた災害用ベッドや飛沫飛散防止用パーティションの製造を行っております。
地域の防災訓練を通じてみなさまの意見・要望を取り入れ、より良い防災製品の開発に努めて参ります。



③廃棄物削減

・産業廃棄物の削減

生産ミスによる不適合品の発生を防止することにより、資材・資源の無駄遣いを防止し、排出される産業廃棄物の発生を防止します。(品質管理室・製造担当)

横浜工場・藤枝工場・東北旭紙業で発生する産業廃棄物は減少しました。また、横浜工場で発生する汚泥は増加しました。

今後も3Rを推進し、産業廃棄物の削減に努めて参ります。また、産業廃棄物・汚水の発生量は段ボール生産量の他に各機械の生産・清掃時のムダによっても増減するため、従業員の意識向上によってムダを減らしてまいります。



④安全・防災

・消防訓練・防災訓練

消防訓練(年1回)及び防災訓練(年1回)を実施することにより、各種災害及び事故が発生した際に的確な対応をとれるようにし、被害を最小限に抑えます。(各事業所)

2025年度も各事業所において消防訓練・防災訓練の実施を致しました。

・安全意識の徹底

安全教育を実施することにより社員の安全意識を高め、事故の発生防止に努めます。(各事業所)

2025年度も社員に対して計画された安全教育を実施致しました。

・0 災害推進

事故・災害情報の共有化を進めることにより、類似の災害発生防止に努めます。(各事業所)

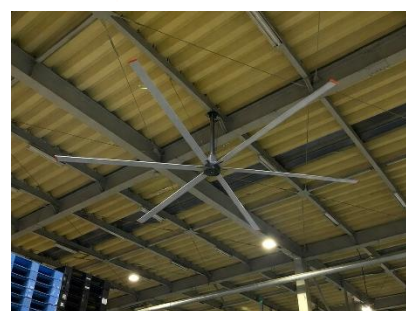
今後は啓蒙・訓練を通じて労災発生時の対応方法の教育を実施してまいります。

また、労災事例の教育による安全意識の向上や労災発生時の対応方法の教育に取り組むと共に、ヘルメットや安全靴の着用を徹底させることで0災害を目指してまいります。

省エネ効果が見込めるリニアモーター式大型工場用シーリングファンを複数台導入することで、工場全体の空気の循環を行い、熱中症予防に努めてまいります。

2025年度 労災発生件数

本社	0件
横浜工場	0件
藤枝工場	0件
東北旭紙業	9件



⑤地域社会への貢献



・地域の清掃活動

各事業所周辺の清掃活動を通じて、地域社会の一員として環境の改善に貢献します。(各事業所)

2025年度は各事業所ごとに地域の清掃活動に参加しました。アドプト・プログラム(市民と行政が協働で進める清掃活動をベースとしたまち美化プログラム。)に旭紙業として参加することにより、より地域と一体となった活動を推進していきたいと思えます。



⑥CO₂排出量削減

・エネルギー使用量の削減

生産効率の向上により省エネにつなげ、各種エネルギー使用量を削減する。(製造担当)
不必要な照明・空調の使用をやめ、こまめに電源を落とすことにより節電をする。(各事業所)

2025年度は全事業所でCO₂排出量が増加しました。工場へ新たな機械設備を導入したことがCO₂増加の主な原因となります。各事業所にて製品設計・製造工程・作業計画の見直しを行い、生産体制を整えCO₂排出量削減の目標達成を目指してまいります。



⑦環境意識の向上

・関係業者への環境意識の向上

アサヒグループに出入りする運送業者に対してアイドリングストップを推奨し、環境意識の向上に努める。(各事業所)

2026年度もアイドリングストップ活動を継続してまいります。また、急発進急ブレーキの無い安定した走行を心掛けてまいります。

また、配送効率の改善を推進し、運送業者の負担軽減と省エネ活動を並行して実施してまいります。



⑧経営システムの見直し

・CSR、SDGsの推進

アサヒグループはコンプライアンスの観点から法令を遵守し、公正、公平な企業活動を通じて株主及び社員とその家族、当社に関わるすべての人と地域社会から信頼される企業を目指します。

また、当社はCSRを取り組む中で、関連するSDGs目標とを結びつけ、事業活動の展開、環境保全、地域社会の持続的発展に貢献していきます。

・ISO9001、14001更新

アサヒグループは国際的な品質・環境の規格であるISO9001とISO14001を取得し、マネジメントシステムの見直しを4月に行い、常に新しい仕組みを取り入れて参ります。

・健康経営優良法人およびSEMETA認定の取得・維持

2026年3月に旭紙業株式会社、東北旭紙業株式会社は『健康経営優良法人2026』（中小規模法人部門）に認定されました。また、2026年4月には『SEMETA認定』を取得しました。今後は従業員の健康管理・コンプライアンスを経営的視点から考え戦略的に実施してまいります。

・ストレスチェックの実施

ストレスチェックを行うことにより、従業員の“心の健康状態”を検査することで、メンタル不調の早期察知や精神障害の発症予防、労働災害の防止を行い、また、従業員のメンタルヘルス向上により、職場環境の改善や個々の生産性向上に努めます。

(2) 総評

アサヒグループ全体としてエネルギー・資材の使用量は横ばい傾向にあります。エネルギー・資材の高騰、社会情勢の変化、企業に求められるコンプライアンスなど、企業を取り巻く環境はますます厳しさを増してきています。アサヒグループでは段ボール製品の設計の見直しに加え、DX推進による生産計画と製造工程の改善、配送効率の向上により、環境負荷の低減を推進します。また、事業所内のエネルギー使用状況の見直しを行い、省エネ機器の導入によりCO₂排出量削減を実施します。さらに、外部関係者（行政、取引先など）との協力体制の強化を進め、社会の環境改善に努めて参ります。

5. 環境法規制関係

(1) 環境法規制関係まとめ

法規制	事業所				遵守状況
	本社	横浜工場	藤枝工場	東北旭紙業	
省エネルギー法	○	○	○	○	原油換算 1,500kℓ 以下の為、測定のみ実施* ¹
フロン排出抑制法	○	○	○	○	確認済み
消防法	○	○	○	○	実施済み
産業廃棄物処理法	—	○	○	○	産業廃棄物管理台帳に記録契約書、マニフェスト保管
静岡県条例第10条	—	—	○	—	確認済み
水質汚濁防止法	—	○	○	○	確認済み
浄化槽法	—	○	○	—	確認済み
大気汚染防止法	—	○	○	○	確認済み
騒音規制法	—	○	○	○	確認済み
振動規制法	—	○	○	○	確認済み
工場立地法	—	○	○	○	確認済み
高圧ガス保守法	—	○	○	○	確認済み
毒物及び劇物取締法の法的その他要求事項	—	○	—	○	確認済み
労働安全衛生法	—	○	○	○	確認済み

* 1 東北旭紙業は旭紙業とは別会社扱いのため、他事業所とは合算しません。

(2) 違反・訴訟等

2026年5月20日現在、環境関連法規について見直しを行いましたが、環境関連法規に違反するものではありません。また、環境関連の訴訟及び当局からの違反の指摘はありません。

6. 管理責任者による全体評価と見直し

【環境経営システムの有効性の評価】

有効に機能している。

【環境への取組状況】

取り組みは適切に実施されている。

【評価コメント】

各事業所・各工場ともに燃料・資材の高騰・国際社会情勢の変化に伴うコストプッシュは避けられない状況です。また、新設備の導入・設備更新に伴い、工場の環境影響の変化も予想されます。この状況を真摯に受け止め、来期は社内システムのDX化・生産計画の見直し・省エネ設備の導入・製造工程の改善・配送効率の向上・社員の意識改善を推進し、生産効率の向上を達成することにより、より良い環境活動につなげていく必要があります。

全社的な環境活動に関しては、継続して各部署の目標管理に展開します。また、アサヒグループと関わりのある全ての関係者と協力して環境改善活動を推進していきます。

【品質・環境方針、目標、活動計画及び経営システム等の変更の必要性】

品質・環境方針に関しては来期も継続して実施する。目標及び活動計画に関しては今期の実績を考慮して来期目標の目標値を決定のうえ、生産工程の改善を進めるべく新たな活動を実施します。

各部門の目標及び活動計画に SDGs との関連性を明確にし、教育を通じて従業員の意識を高めていきます。マニュアル・社内規定の見直し、労働安全衛生目標の決定、リスクアセスメントの実施等を行います。また、近年の労働安全衛生・環境・企業倫理への要求の高まりに応える為、健康経営優良法人・SMETA 認証の維持に努め、従業員と共に活動してまいります。

付録1 2025年度 環境行動報告

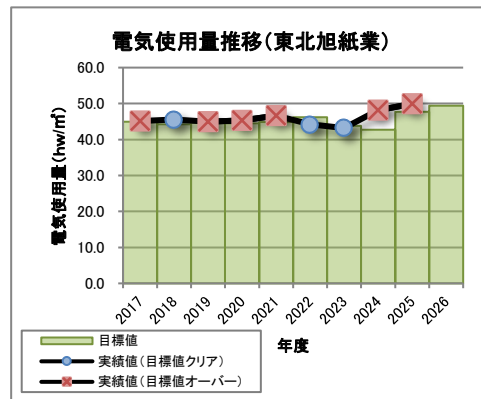
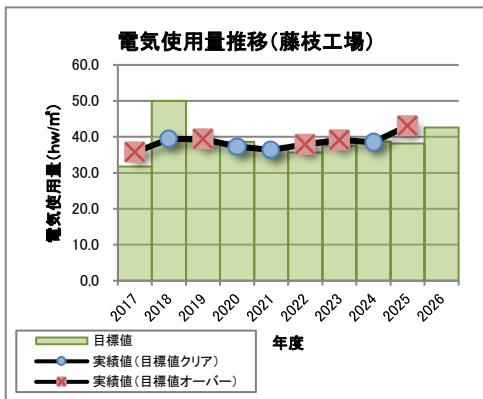
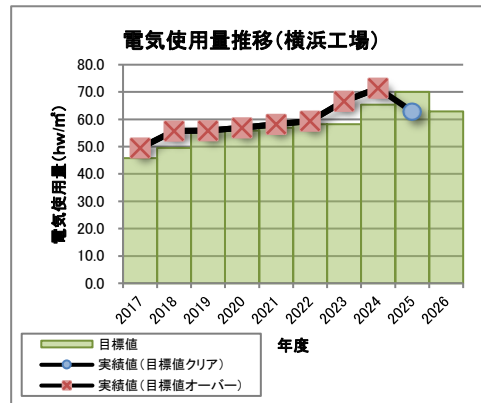
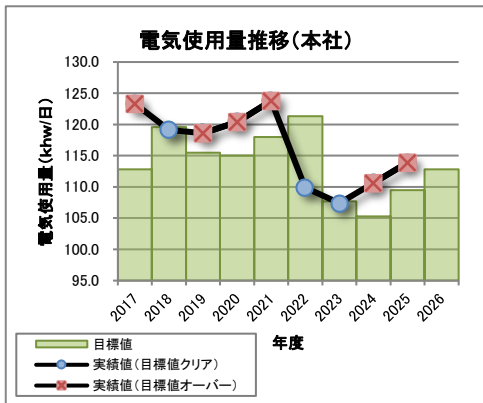
2025年度環境行動報告

分類	項目	事業所	2025年度計画	2025年度実績	評価	2026年度計画	
省資源	電気使用量の削減	本社	109.5 kWh/日 前年比1%削減	113.9 kWh/日	×	112.8 kWh/日 前年比1%削減	
		横浜工場	70.0 Wh/m ² 前年比2%削減	62.9 Wh/m ²	○	62.9 Wh/m ² 現状維持	
		藤枝工場	38.14 Wh/m ² 前年比1%削減	43.03 Wh/m ²	×	42.60 Wh/m ² 前年比1%削減	
		東北旭紙業	47.67 Wh/m ² 前年比1%削減	49.91 Wh/m ²	×	49.41 Wh/m ² 前年比1%削減	
	OA用紙コピー用紙の使用量の削減	本社	112,000枚 前年比1.32%削減	108,500枚	○	107,000枚 前年比1.38%削減	
		横浜工場	388,000枚 現状維持	405,000枚 現状維持	×	405,000枚 現状維持	
		藤枝工場	282,645枚 前年比1%削減	309,500枚	×	306,405枚 前年比1%削減	
		東北旭紙業	1,126,000枚 前年比1%削減	1,086,000枚	○	1,075,140枚 前年比1%削減	
	工程内ロスの削減 (2017年度よりハニカムのロス率を細分化して集計)	横浜工場	段ボール	4.44% 前年比13.3%削減	5.29%	×	4.76% 前年比10%削減
			ハニカム CHS	0.76% 前年目標継続	1.26%	×	0.76% 前年目標継続
			ハニカム貼合	0.81% 前年目標継続	0.79%	○	0.76% 前年比4%削減
			ハニカム加工	9.0kg 現行維持	9.1kg	▲	8.9kg 前年比2%削減
ガス使用量の削減 (フォークリフト)	横浜工場	月平均	813Kg 現状維持	840Kg	×	840Kg 現状維持	
		ガス使用量の削減 (ボイラー)	月平均	0.0153m ³ /m ² 現状維持	0.0156m ³ /m ²	▲	0.0156m ³ /m ² 現状維持
ガス使用量の削減	東北旭紙業	10.19g/m ² 前年比1%削減	10.68g/m ²	▲	10.57g/m ² 前年比1%削減		
リサイクルの推進	環境対応品の提案	本社	12件 月1件	12件	○	12件 月1件	
		藤枝工場	12件 月1件	10件	▲	12件 月1件	
		東北旭紙業	12件 月1件	12件	○	12件 月1件	
	リサイクルの推進	グループ全体	100%	100%	○	100%	
廃棄物削減	産業廃棄物の削減	横浜工場	混合	115m ³ 現状維持	141m ³	×	138m ³ 前年比2%削減
			汚泥	46,000kg 前年比約2%削減	45,990kg	○	45,530kg 前年比1%削減
		藤枝工場	7,788kg 前年比5%削減	7,264kg	○	6,901kg 前年比5%削減	
		東北旭紙業	107,700kg 前年比1%削減	94,540kg	○	93,500kg 前年比1%削減	
安全・防災	消防訓練	グループ全体	消防訓練の実施 (年1回)	消防訓練の実施 (年1回)	○	消防訓練の実施 (年1回)	
	防災訓練		防災訓練 (年1回)	○	防災訓練 (年1回)		
	安全意識の徹底		安全教育	○	安全教育		
	0災害推進	本社	0件	0件	○	0件	
		横浜工場	0件	0件	○		
地域社会への貢献	地域の清掃活動	本社	アドプト活動、みなとタバコルールキャンペーン参加	アドプト活動、みなとタバコルールキャ	○	アドプト活動、みなとタバコルールキャンペーン参加	
		横浜工場	会社前歩道清掃活動実施	会社前歩道清掃活動実施	○	会社前歩道清掃活動実施	
		藤枝工場	河川の清掃活動・草刈	河川の清掃活動・草刈	○	河川の清掃活動・草刈	
		東北旭紙業	公道の清掃活動・草刈実施	公道の清掃活動・草刈実施	○	公道の清掃活動・草刈実施	
CO ₂ 排出量削減	エネルギー使用量 (重油換算値 (kl) / t-CO ₂ 換算値)	本社	6.96kl / 15.27t-CO ₂ 前年比1%削減	7.23kl / 15.90t-CO ₂	×	7.16kl / 15.74t-CO ₂ 前年比1%削減	
		横浜工場	1.194kl / 2.110t-CO ₂ 前年比1%削減	1.336kl / 2.593t-CO ₂	×	1.322kl / 2.567t-CO ₂ 前年比1%削減	
		藤枝工場	68.3kl / 147.5t-CO ₂ 前年比1%削減	77.2kl / 166.5t-CO ₂	×	76.4kl / 164.8t-CO ₂ 前年比1%削減	
		東北旭紙業	1.271kl / 2.847t-CO ₂ 前年比1%削減	1.298kl / 2.900t-CO ₂	▲	1.285kl / 2.871t-CO ₂ 前年比1%削減	
環境意識の向上	関連業者への環境意識の向上	グループ全体	運送業者環境意識の向上	運送業者環境意識の向上	○	運送業者環境意識の向上	

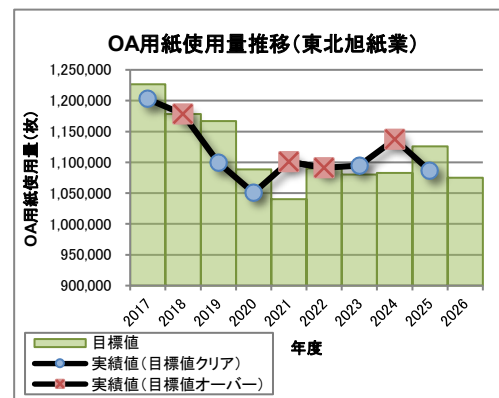
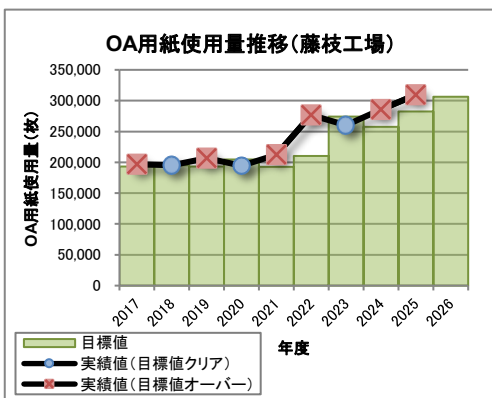
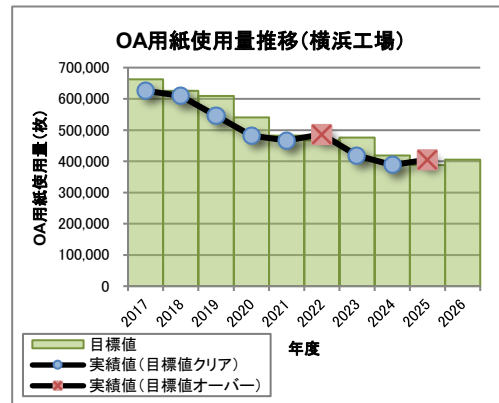
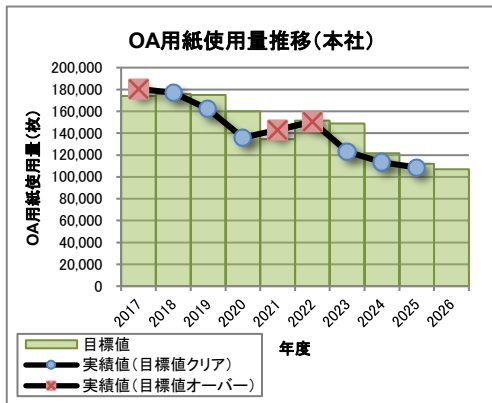
目標の実績評価： ○達成 ▲達成率75%以上 ×達成率75%未満

付録2 各目標値の推移

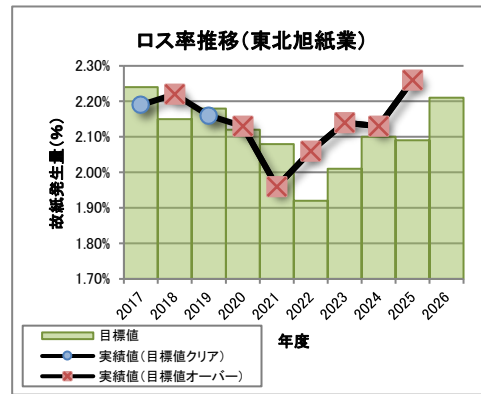
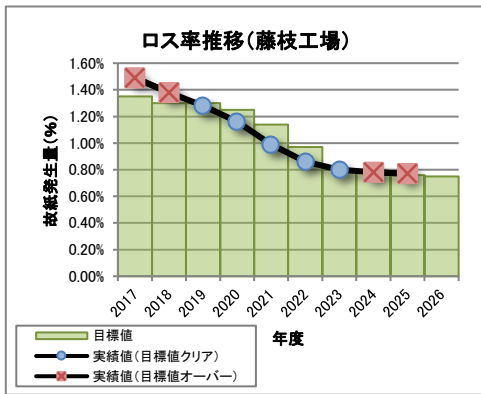
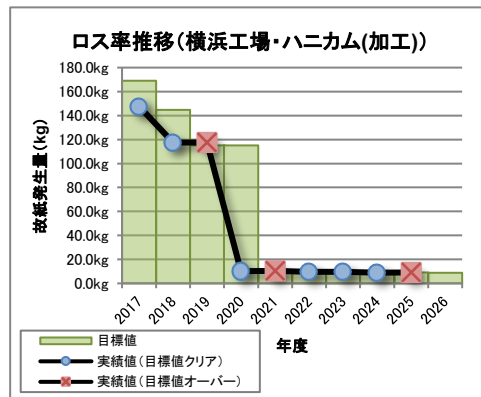
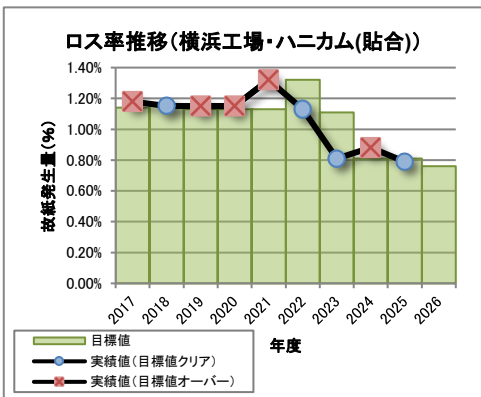
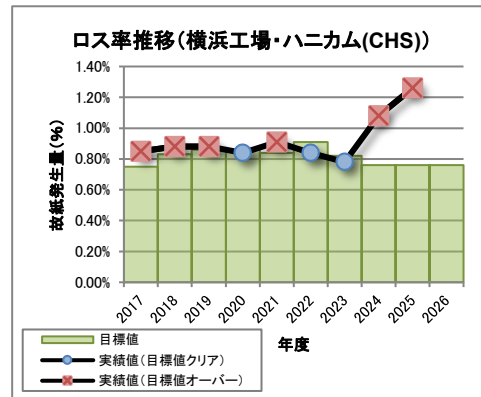
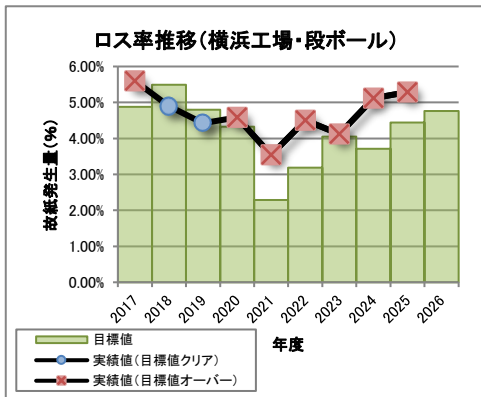
(1) 電気使用量推移



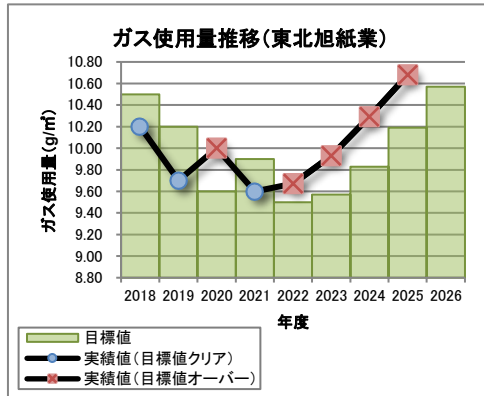
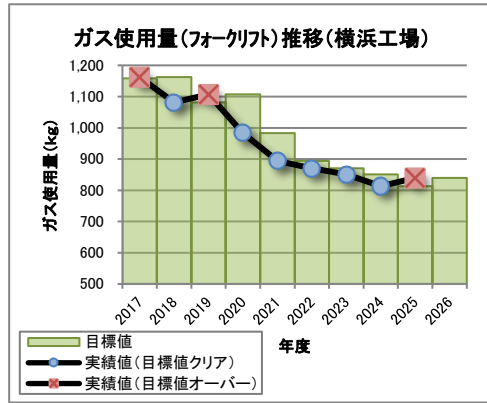
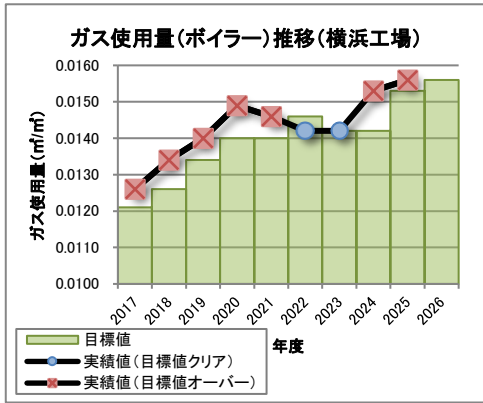
(2) OA用紙使用量推移



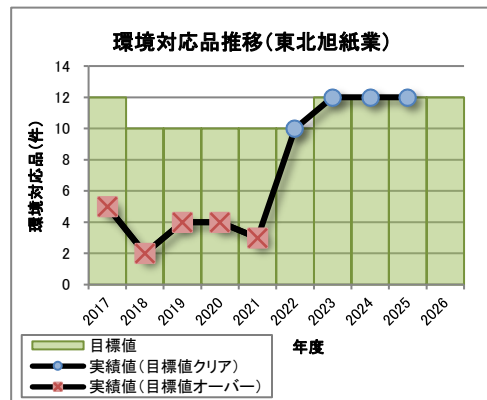
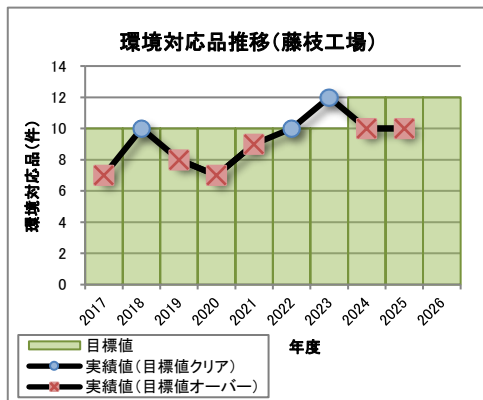
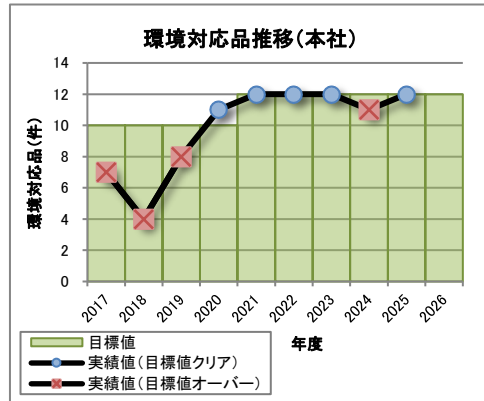
(3) ロス率推移



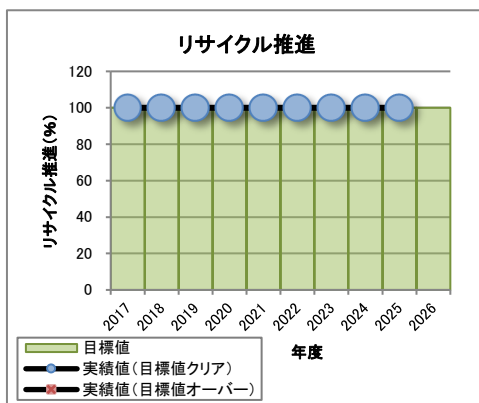
(4) ガス使用量推移



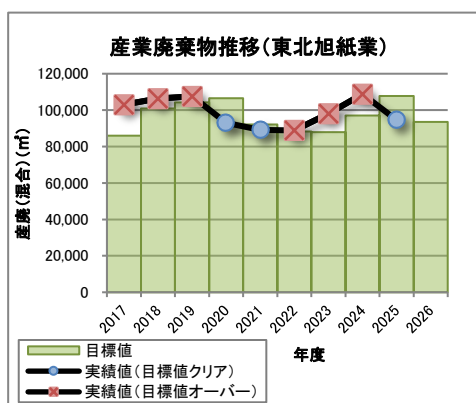
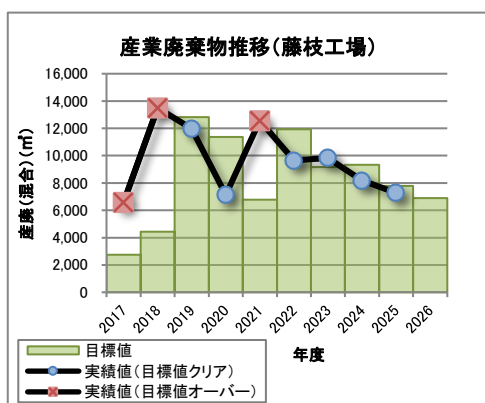
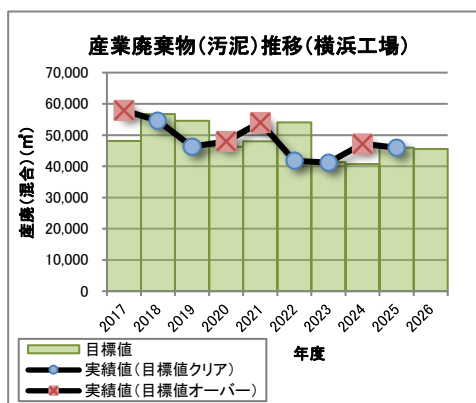
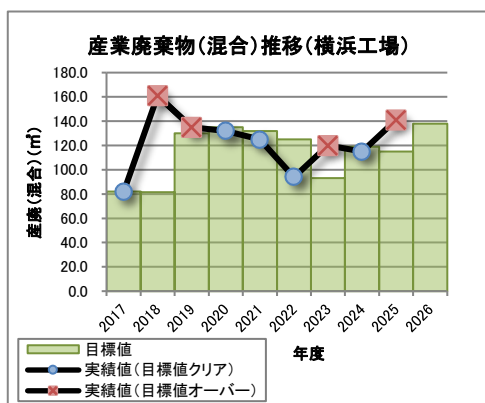
(5) 環境対応品推移



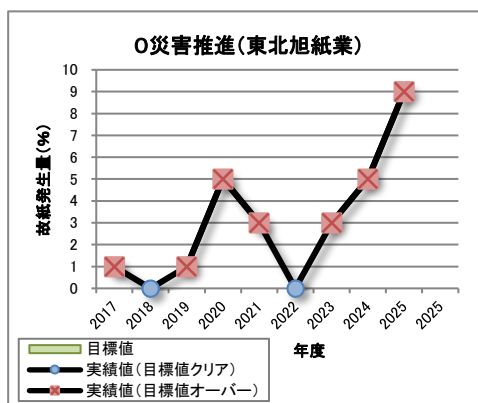
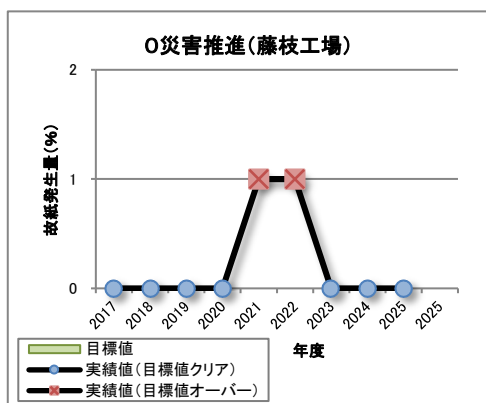
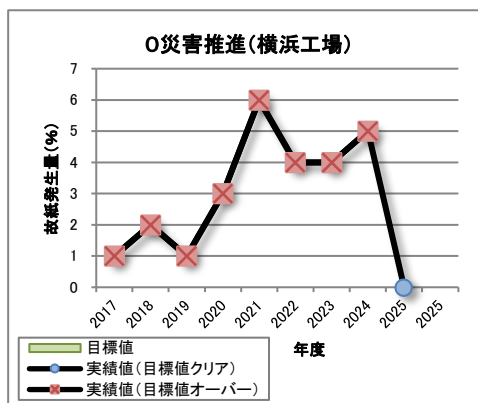
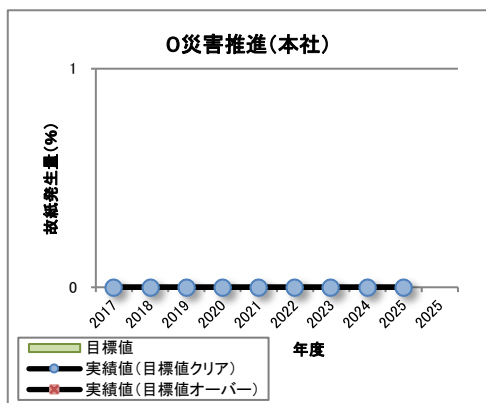
(6) リサイクル推進



(7) 産業廃棄物 (混合・汚泥) 推移



(8) 0災害推進



(9) CO₂排出量推移

